2015年（平成27年）
第98号
（2月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

元旦参り、ご親教　　～開祖生誕１１０年の節目の年～

【元旦参り】

１月１日、京都教会において元旦参りが行われ、多くの会員が参拝しました。門川大作京都市長及び福山哲郎参議院議員の挨拶、京都佼成議員懇話会紹介、佐藤教会長から新年のお言葉がありました。

教会長さんは会長先生の年頭ご指導から、**①テーマを持つ、②釈尊の願い通りに生きる、③菩薩道・布施行を実践する**と教えて頂きました。

また今年は開祖生誕１１０年、ＷＣＲＰⅧ（京都大会）から１０年という節目の年であると述べ、京都のサンガの皆さまと共に世界平和に一歩でも近づけるよう、サンガ一体となって取り組んでいきたいと決意を発表されました。

【ご親教】

年頭に当たり、庭野日鑛会長から指導を受け、会員それぞれが一年の誓願を新たにする「御親教」式典が１月７日、大聖堂はじめ全国各教会で行われました。

「御親教」に立った庭野会長は、**『燈明』『温習（おんしゅう）』**の二幅の書き初めを披露。自らを灯明とし法を灯明とするとともに、過去の学びや自身の救われを振り返りながら習熟していく大切さを説きました。また、菩薩行の重要性に言及し、**「人を先にして、己を後にする」**ことが仏の教えにかなう実践であると述べました。大聖堂には会員約３４００人が参集。正面玄関では、七草粥（ななくさがゆ）が振る舞われました。

なお、式典の模様は、インターネットを通じて国内の教会や拠点に配信され、京都教会においても配信された映像を多くの会員で拝見させて頂きました。

大聖堂の式典では、東京西支教区の青年女子部員１６人による奉献の儀に続き、庭野光祥次代会長導師による読経供養が行われました。

このあと川端健之理事長が「年頭挨拶（あいさつ）」に立ち、平成８年３月２２日付の佼成新聞に掲載された「開祖随感」の内容を紹介。**『信仰する人の一番の幸せは、仏さまがすべてご照覧だと信じきるところにあります。**（中略）それが信じられると、仏さまのお答えが望みどおりでなくても、頂いた結果を仏さまのお答えとして、**自分のどこがどう違っていたか反省できます。反省すれば同じ過ちを繰り返すことはありません。**時を経て初めて**「これがご守護だったのだ」**と思い知るときがくるのです。

悲しみや絶望を通してこそつかめる宝物があるのです』の一節に触れ、「佼成会の会員である私たちは、**仏さまはすべてをご照覧だと信じること**が大事」と述べました。

時事刻々

京都の冬は、駅伝の冬と言えるでしょう。十二月の全国高校駅伝、一月には全国女子駅伝、二月は小学生の大文字駅伝、三月は全国車いす駅伝と、毎月都大路を多くのアスリートが駆け抜けます▼また、二月に行われる「京都マラソン」と並走して『インターフェイス駅伝』が行われます。国内外の宗教者４０人が、宗教の違いを超えて４人ずつ１０チームが世界平和を祈り、たすきをつないで走ります▼一九一七年に京都から上野まで日本初の駅伝「東海道駅伝徒歩競争」が開催されたところから、京都は「駅伝発祥の地」と言われています。そのスタート地点として、三条大橋には「駅伝の碑」が建てられています▼底冷えする寒さの中で、選手はもちろん、応援する市民、大会を支えるスタッフやボランティアと、多くの人たちによって、駅伝は行われます▼みんなで力を合わせてゴールを目指す。平和な世の中であり続けるために、諸先輩が積み上げてこられた「たすき」をつなぐように努めたい。

今月のことば　～私心を去る～　　男子部長　　澤村悦玄

今月は、男子部長の澤村が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

この文章を書くお役を頂き、その因縁を考えておりました。み教えでは、この世は孤立して存在するものは無く、必ず何らかの関連があると教えて頂きました。会長法話を拝読いたしますと、そんな意味を探す私のために語りかけて下さる様に感じました。

私は日頃から自分と持論を持ち、それを相手に明確に伝える事に重きを置いています。ゆえにとらわれたり、正しいと思うばかりに素直に返事ができず硬くなったりします。特に家内には素直に「はい」と言えなかったり、謝れなかったり、そのままを頂戴することが出来ないこともあります。

そんな私に会長先生は実業家稲盛和夫さんや、経営の神様松下幸之助さんを引き合いに出して下さいます。**「私心を去る」**とは経営の基本であり成功の鍵だと。小さくとも会社を経営する私にとって「だって、でも出来ない」では聞けないお話です。要するに素晴らしい経営者になりたければ**「私心を去る」**事を心がけなさいとお教え下さいます。若さゆえに自分の力で困難を乗り越え成功したいと願うことがあります。またそれが物事への原動力になることもあります。しかしその原動力は**仏さまに通じた物では無く、それこそが私心**だと言う事がよくわかります。

急に「はい」と素直になれないかもしれません。全てを「はからい」と頂戴できないかもわかりません。しかし世の中に変化しないものは無いと教えて頂いております。ですから**私も必ずそのように変化できると素直に信じて実践してみたい**と思います。

先ずは家内に「はい」と返事をし、悪いと思うなら素直に謝って見たいと思います。その**目の前の実践が素晴らしい経営者への一歩となり、皆さまのお役に立てる私に近づいて行く**のだと思います。

よく考えて見れば、私の家内はいつも「はい」と返事をしてくれますし、頂いた現象は全て必然と言わんばかりに自然に受け止めます。と言うことは私よりも家内の方が・・・！家内に対する態度が、さらに変わりそうな私です。　　合掌

政治学習会　　～ご命日式典で会員が集う～

１月10日の脇祖さまご命日において、青壮年部主催の政治学習会が行われました。

国会議員の方に来て頂き、国会中継のDVDを放映しながら、ご命日に参拝している会員さんと共に国政について学びました。

日頃、テレビや新聞で聞いている言葉も大変分かりやすく説明下さいました。

ユース２１京都　　設立１５周年記念式典・懇親会

１月２９日、ホテル松井花かんざしに於いて「ユース２１京都設立１５周年記念式典・懇親会」が行われ、京都市藤田副市長はじめ府・市の行政担当者やユース２１京都加盟団体の責任者など約６０名が参加しました。京都教会からも佐藤教会長、田中渉外部長と青年部代表者が出席し、他団体との交流を深めることが出来ました。

藤田副市長は祝辞の中で京都市成人の日記念式典と全国車いす駅伝の企画・運営の中でユース２１京都の役割に触れ、行政と青少年団体により作り上げられる事業に力強さを感じるとともに、加盟団体においては次代への継承を呼びかけられました。

また、宮川町から来られた舞妓さん芸子さんによる祝舞が、式典に花を添えて頂きました。

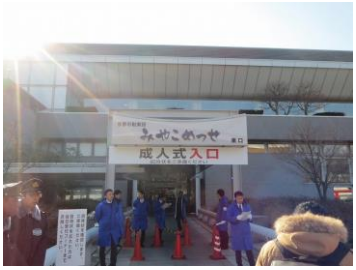
新しい門出　成人式　～京都市成人の日記念式典ボランティア及び教会成人式～

【京都市成人の日記念式典】

平成２８年「京都市成人の日記念式典」が、みやこめっせで開催され、京都教会から館内外の誘導ボランティア１２名と、姓名鑑定団１７名が参加しました。

今回も午前と午後の２回式典が行われ、合計約６５００名の成人者をお迎えさせて頂きました。姓名鑑定もとても多くの成人者が足を運んでくださり、２００名近くの鑑定をさせて頂きました。

成人者にとって、人生一回のおめでたい日を我々も共にお祝いさせて頂いたことに感謝させて頂きました。



【第５０回　京都教会成人式】

１月２４日、「第５０回京都教会成人式」が法座席及び体育館で行われました。１部の式典は法座席で行われ、支部長さんはじめ多くの会員さんも参加しました。

読経供養の後、祝電披露があり、国会議員さんからの電報が披露されました。その後、記念品贈呈、教会長祝辞があり、佐藤教会長さんは５０回目の節目で今回のテーマである**「原点に還る」**にふれ、人間として一番大事なことと述べられました。**「還る」**とは戻る、振り返る、再び巡るという意味であり、**「家族という還るところがあることのありがたさをかみしめ、これからの人生で悩むことがたくさん出てきた時は、ぜひ仏の教えに還ることを忘れないで頂きたい」**と結ばれました。

２部の懇親会では体育館に会場を移し、食事をしながらゲームなどで楽しい時間を過ごしました。親子対決のゲームでは、約１５年前の出来事をクイズ形式にし点数を競うもので、成人者チームが勝利をおさめ、成人者同士の結束が生まれました。

親からの手紙披露では、舞台上で親からメッセージを伝えるもので、会場の涙を誘いました。

また、京都教会の第１回成人式で祝ってもらったという幹部さんが当時の成人式の様子を語り、**「感謝の気持ちをお返ししたいという気持ちから、次年の成人式の実行委員を立ち上げた」**ことを述べられました。

祝ってもらった成人者が、次の年の成人式の企画・運営を行うという、京都教会の伝統が５０年続いてきたことに、会場からは大きな拍手が送られました。

最後に参加者全員で花道を作り、盛大に成人者をお送りしました。

明るい社会づくり運動　　～右京明社と京洛明社でたすけあい募金活動～

年を締めくくる縁日「終い天神」でにぎわう１２月２５日、恒例の右京明社と京洛明社合同による街頭募金活動を、北野天満宮大鳥居周辺三地点で実施しました。

当日、一時は時雨が降りましたが、募金が始まる頃は風もなく、日差しの中で皆さん善意の募金活動を実施出来ました。例年恒例の募金活動で１１時～１２時までは京洛明社、１２時～１３時は右京明社が担当しました。

今年は例年と比較して参加者は少数でしたが、右京明社では毎年参加される２名の小学生兄弟が元気な大きな声で「お願いします！」と募金を呼び掛けました。「寒い中、ご苦労さん」と激励の声をかけられ多くの方から善意の募金をいただきました。お子さんたちは「ありがとうございます」とお礼と感謝の言葉を返していました。

今回の募金活動を通して善意の大切さを実感したお子さんたちは、次回の募金活動にもきっと参加されることでしょう。

募金額は昨年より減少しましたが、困っておられる方にいいお正月を迎えてもらえる一助になったと感じております。

当日の善意の募金は、例年の通りその日のうちに京都共同募金会に持参・寄付しました。後日、同募金会から地区明社宛に丁重な礼状が送られました。
ありがとうございました。

「平和憲法について」　～庭野開祖著『平和への道』より～

今年の夏の参議院選挙で、安部総理は「憲法改正」を争点に据えると表明されました。そこで、庭野開祖の日本国憲法に対する考えを記したいと思います。（編集部）

わたしは憲法の専門家ではありませんから、ここで憲法論議を展開しようとは思いませんが、日ごろ、それについて考えていることだけを述べてみたいと思います。まず、わたしは、この平和憲法を大事にしなければならないことを、常に申し上げております。

この憲法の前文には**「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われわれの安全と生存を保持しようと決意した」**と明示され、ここに絶対非武装の憲法が制定されたわけです。もちろん、現憲法に対しましては、押しつけの占領憲法とか、マッカーサー憲法などという批判もありますが、とにかく、他の国々では求めようとしてもできない形の憲法を労せずして得たのですから、なんとかこれを維持していきたいものですし、また維持できるような世界にしたいものです。

それから、いま一つ、わたしが申し上げておきたいことは、条文解釈というものは、読みようによっては、―いや、読む人の心によってはと言ったほうが正しいでしょう―ある程度の幅が生じるものだということです。例えば、いくら自衛隊が違憲であるといっても、例えば第九条の、**「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達成するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」**を、次のように理解することもできるのです。

“前項の目的を達成するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない”とあるが、それでは“前項の目的以外のものであれば戦力を保持してもよいはず”というような弾力的解釈も、論理的には成り立つわけです。

そこで、この憲法解釈から、わたしがもう一つふれておきたいのは、**“憲法によって起こるのではない”**ということです。これはまことに素朴な表現ですが、とにかく**憲法の条文だけで戦争が起こるのではない**ということを申し上げておきたいと思います。また反対に、いかに憲法の条文を美しいヒューマニズムの文章でつづったとしても、それだけで**平和が保障されるのではない**ということでもあります。

いま申し上げましたような、読み違えというよりは意識的な読み換えは、例えば、禅寺の入口に立てられている“不許葷酒（くんしゅ）入山門”の文字をご存知のかたは多いと思いますが、もちろん、これの本当の読み方は“葷酒山門に入るを許さず”ですから、その意味は、ニラ・ニンニクのような精力の強い野菜類や酒を山門から寺へ持ち込んではいけない、ということです。

しかし、どうしても酒がのみたくて仕様のない者は、自分の都合のいいように“葷は許さず、酒は山門に入る”と読んだり、“あに葷酒の山門に入るを許さざらんや”と読んだりします。結局は、持ち込みを許さないための戒律も“許さざる葷酒山門に入る”ということになって、戒は破られてしまいます。つまり、憲法条文の解釈にいたしましても、**心しだいで拡大解釈ができる**ということになりましょう。

要するにアメリカの憲法にしても、日本の戦前の明治憲法にしても、真っ向から侵略戦争を鼓吹するような好戦的な条文を掲げたものは一つもありません。それにもかかわらず人類の歴史は戦争の歴史だったといわれるくらいに戦争がおこっています。

結局は、**憲法の条文から戦争がおこるのではなく、不信の心、憎しみの心、欲の心を基調にした経済、外交、軍事上の摩擦から戦争になるのだということを、まず肝に銘じておきたいものです。**

2～3月の主な教会行事

2月1日(月)	9:00～	朔日参り・布薩の日
3日(水)	9:00～	節分会
4日(木)	9:00～	開祖さまご命日
10日(水)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(月)	9:00～	涅槃会・釈迦牟尼仏ご命日
3月1日(火)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4日(金)	9:00～	開祖さまご命日
5日(土)	9:00～	創立記念日
10日(木)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(火)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

１月末に数十年に一度の大寒波が日本全国を襲いました。沖縄でも雪が降ったり、何十センチも雪が積もった地域もあったようです。路面の凍結による事故や雪降し作業などで亡くなられた方もおられたとのこと。ご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた地域は一刻も早い復旧を念ずるばかりです。この大寒波の数日前からテレビでは警報が呼びかけられていました。現在ほど予報技術が発達していない時代であれば、さらに多くの被害があったに違いありません。災害から人を守ろうとされてきた先人の努力に敬服します。